

## 堺屋太一会長の基調講演

皆さん、こんにちは。ただいま過分な紹介をいただきました堺屋太一でございます。

私どもは、この昭島にアジア刑政財団の事務所を設置しております、その関係で発展途上国、アジア諸国の人々との交流を盛んに行なっております。また、これからも皆さん方に、諸外国から来る研修生との交流を宜しくお願いしたいと思っております。

さて、私が、今日、この昭島の将来について考える、これからの「街づくり」は、大変難しくなっております。というのは、日本の人口がこれからは増えない、むしろ減少気味になっている。今は、この東京近辺というのは、東京一極集中の効果でまだまだ賑やかでございます、ビルも建てば家も建つ、町も広がれば商店も増えるという状態でございますけれども、もうしばらくした 2025 年ぐらいになりますと、人口減少がだんだんと効いてきて、高齢者ばかりになってくるという心配があります。そうした中で、この昭島をどのようにして発展させるか、どのようにして賑やかにするか、どのようにして面白い社会にするか、これが重要なことだと思います。

考えてみると、日本という国は、明治維新によって、まず、最初の日本、明治の日本を創りました。徳川時代には、日本の国の唯一の倫理観、何をしたらいいかという倫理観ですね、これが「天下太平」だったんです。もう何ごとも天下太平、要するに世の中が大きく変わらないこと、これが一番いいことだったんです。

ところが明治維新で、この社会の倫理と美意識がごろりと変わって、富国強兵、殖産興業という前向きなものが非常に良いということになりました。そしてそういうことのできる人材が優れた人材となりました。それまでは、天下太平で、きちんと袴を着てじっと座っているような、そういう人が優れた人材だったんですけれども、いっぺんにこのときから物事を積極的に進めるといった人が良くなったんですね。そして、その明治の日本が約 70 年間続きました。明治の日本の一番の頂点は、第一次世界大戦に勝ったときであったでしょう。

それから昭和の初めになりますと、だんだんと軍国主義になり、日本の行き詰まりが見えてきます。そして、やがて日中事変になり、太平洋戦争になった。そして二度目の敗戦とも言うべき太平洋戦争での敗戦がありました。それでまた、日本の国ががらりと変わったんですね。今度は強い日本ではなくて、「豊かな日本」を目指そうということで一生懸命復興をし、経済成長をし、所得倍増計画を作って日本が大いに発展いたしました。それから今日まで 70 年経ちました。

ところが、この平成になってから日本の成長がいささか衰えてきました。そして世界に占める日本の地位がどんどんと下落し、中国に追い抜かれ、ロシアに追い抜かれ、今

や日本は先進国の中では、最終的な、後の方になってしまいました。来年、平成が終わりますして、新しい元号になりますが、この辺りで三度目の日本、明治の日本、昭和の日本に続く、新しい日本を創らなければいけない。まあそういう時代になっているかと思えます。

では、新しい日本は何を目指すのか。第一の日本は「強い日本」を目指して富国強兵、殖産興業に突き進みました。第二の日本は「豊かな日本」を目指して経済成長、所得倍増を目指しました。では第三の日本は何を目指すのか。私は、「楽しい日本」を創って欲しいと思っております。したがって、この昭島の「街づくり」もですね、「楽しい昭島を創ろう」、そういうコンセプトを掲げていただきたい。皆が喜んで、楽しく住める、楽しさというのはやはり、多様性と意外性のある町、そういった多様性のある町、意外性のある町、そういう「街づくり」をしていただきたいと思っております。

幸いにもこの昭島には、昭和の森と昭和の記念物が沢山あります。豊かな緑と、そして豊かな地下水があるそうでもあります。これを活かしてですね、本当に楽しい街づくり、「住んで楽しい」「働いて楽しい」「通って楽しい」、そんな街づくりを目指してもらいたいと思っております。

幸いに 2025 年、6 年先には二度目の万国博覧会があります。当地の出身の鈴木俊一さんは、日本の万国博覧会の事務総長を務められました。後に東京都知事になられますけれども、あの日本万国博覧会に 6422 万人を集めて、192 億円の黒字を残した。イベントというのは補助金を出してやるものではないんです。儲かるんです。それを示したのが鈴木俊一さんでありました。是非この昭島もですね、儲かるイベントをやりたい、そして全国から大勢の観光客が来て、賑やかな町、楽しい町になってもらいたいと思っております。

その一つの切っ掛けとしては、2025 年の万国博覧会のパビリオン、まあ沢山のパビリオンができるでしょうが、その中の一つを昭和の森に誘致して、立派な昭和記念館、昭和の文化、昭和の楽しみを示すような、多様性を示すような施設を考えてはいかがかと思えます。万国博覧会の後利用となりますと、費用もそう掛からないし、相当立派なものができると思えます。そういうような一つのプロジェクトを立てて、この街づくりに励む、そしてそこに私たちの財団も協力させていただいて、世界中の研修生が楽しめるような、日本を知るような、そしてこれからどんどんと入ってくる外国人の労働者が、日本とは何か、昭和とは何か、日本文化とは何かということ、感じられるような施設を造ってみてはいかがかと思えます。

一つ、市長さん以下、商工会議所の皆さんで、こういうような目標を持って、街づくりをされてはいかがかと考えている次第であります。

どうもご清聴ありがとうございました。